

01-007

幼児を育てる母親の育児に関するリテラシーとヘルスリテラシー及び育児の情報源との関係

日野 さち恵^{1,2)}、古谷 佳由理²⁾目白大学 看護学部 看護学科¹⁾、
埼玉県立大学 保健医療福祉学部 看護学科²⁾

【はじめに】日常生活の中での様々な意思決定は、ヘルスリテラシー（以下HL）の影響を受けている。母親は日常生活の中で、多くの時間を育児に費やしており、母親のHLが子どもの健康状態に影響していると考えられる。また、母親は育児に関する情報をインターネットや実母などから得ており、育児を行う際に生じる意思決定は、これらの情報源から影響を受けていると考えられる。

【目的】母親のHLを数値化し、育児及び情報源との関係を検討することで、母親が自ら情報にアクセスし、判断し、その情報を育児へ活用していくことへの示唆を得ることができる。

【方法】幼児を育てる母親を対象とし、量的横断的記述研究を行った。調査内容は、学歴や年齢などの特性、育児に関する情報を得る情報源、HLS-14を参考に育児に関するリテラシー（育児に関する相互作用的反リテラシー・育児に関する批判的反リテラシー）、HL（機能的HL・相互作用的反HL・批判的反HL）を測定する項目を作成した。分析方法は、SPSSを使用し重回帰分析を行った。

【結果】対象者660名に質問紙を配布し、255名から回答を得た。HLの項目などが未記入であった21名を除外し、234名を分析対象とした。特性では「学歴」が「機能的HL」へ影響していた。情報源では「育児雑誌・書籍」が「育児に関する相互作用的反L」へ、「保育者」「インターネット」が「育児に関する批判的反L」へ影響していた。HL、育児に関するリテラシーの項目間では、「相互作用的反HL」が「育児に関する相互作用的反L」へ、「批判的反HL」が「育児に関する批判的反L」へ影響していたことから、母親のHLは育児に関するリテラシーへ影響していることが示された。また、「育児に関する批判的反L」が「相互作用的反HL」へ影響していたことから、母親の行う育児が、母親のHLへ影響していることが明らかとなった。

【考察】看護支援の際に、母親の「学歴」を確認することは不可能に近い。そのため、どのような教育を受けてきた母親であっても、正しく理解できる言葉を使用した説明が必要である。また説明の後には、理解の確認を行い、看護師の説明が適切であったか振り返りを行う必要がある。また、母親が育児に関する情報を取得する際には、信頼できる複数の情報源にアクセスすることや、専門家の情報と合わせて判断することの重要性を、定期健診や外来等で広く普及させることが必要である。

01-008

幼児が健康に発達するために支援についての一考察—保護者と幼稚園教諭へのインタビュー調査から—

三森 寧子

千葉大学 教育学部

【目的】幼児の健康に関して、幼稚園教育要領や保育所保育指針では、「健康」領域においてねらいが明記されているが、幼児期の健康に関する支援や教育は、体系化されていない。そこで、本研究では、幼児が健康に発達するための要素を明らかにすることを目的とし、幼児期における健康支援のあり方を探る資料を得ることとした。

【方法】機縁法にてリクルートした幼児教育に携わる者（以下、幼児教育者）と幼児を育てている保護者を研究参加者として、一人当たり平均55分の半構造化インタビューを実施した。質問項目は、発達資産の枠組みを参考に、1)健康に育っている子供、2)身につけたい特性や行動、3)好ましい経験、4)必要な社会的サービスとした。調査期間は2019年9月～10月であった。

【倫理的配慮】幼児教育者ならびに保護者に対して目的、方法、結果の公表、個人情報保護ならびにデータ管理の厳重性等について口頭で説明し、承諾を得た。

【結果】研究参加者は幼児教育者3名と保護者3名であった。幼児教育者は、健康に育っている子供は、

【健康的な生活習慣がある】【他者に対する思いやりの心がある】【自分の意思をもって行動する】【家庭生活が満たされて安定している】子供であり、【身体を動かして遊ぶ】【思いやりを持って他者とコミュニケーションをとりながら協調できる】【自己肯定している】などの特性や行動があり、健康に発達するために【能動的に自分の意思で物事に取り組める】【家庭の中で愛される】【家族以外の人と信頼関係を結ぶ】などの経験が好ましいと述べていた。一方保護者は、【自分らしく豊かに感情表現できる】、【身体を使って元気に遊ぶ】子供が健康に育っていると、【健康的な生活習慣がある】【思いやりをもって周囲とコミュニケーションをとりながら協調する】【自分らしく伸び伸びしている】などの特性や行動、【家族以外の人と信頼関係が築ける】【家庭の中で愛される】などの経験が好ましいと述べていた。

【考察】幼児が健康に発達するために、[生活習慣がある]、[よく遊ぶ]、[家族に愛される]、[家族以外の人との信頼関係]、[他者を思いやる心]等が要素として抽出され、「人とつながること」について多く語られていたことから、子供の健康を支援するには家庭や地域社会のあり方が重要であり、今後はソーシャルキャピタルの醸成に着目した支援のあり方を検討する必要性が示唆された。